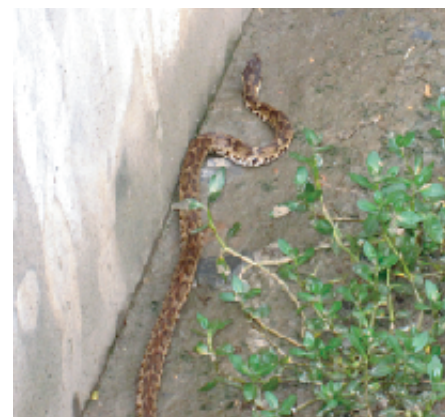


○ ハンピ（反鼻）



語源

反鼻とは、本来、中国大陸にすむアオハブ（タイリクハブ）あるいはその近縁種のこと、鼻先が短く上に反り返っているところから命名された。マムシは日本での代用品といえる。

基原

マムシ *Agkistrodon halys*

クサリヘビ科

マムシは体長50cm前後で、頭は小さく三角形。日本本土に生息する唯一の毒蛇で、水辺に近い草むらに生息し、夜行性でネズミやカエルなどを捕食する

薬用部分

内臓を取り出し、皮を剥いで長く伸ばして乾燥したもの。ときにはハブ、ヒメハブも用いられる。薬剤ではマムシの皮を剥いで棒状にしたものを反鼻あるいは五八霜（ごはっそう）といい、皮付きのまま蒸して円盤状にしたものを「マムシの蒸し焼き」と呼んでいる。

産地

日本、韓国、中国

かつて韓国産が主であったが、現在の市場品は、ほとんどが中国の飼育品で韓国産は少ない。

主な薬効

漢方では性味は甘温・有毒で、解毒・攻毒・強壯の効能があり、ハンセン病や腫れ物、皮膚のしびれ、腹痛、痔疾などに用いる。日本では強壯、興奮薬として、粉末または黒焼きにして、過労時、冷え症などに内服する。また、黒焼きを民間的に切り傷、化膿性膿瘍に外用する。☒

マムシは明治以降には滋養・強壯剤として用いられることが多く、今日でも栄養剤やドリンク剤などにハンピチンキの名前で配合されている。また、民間療法ではマムシの生き血や生胆、生きたまま漬けたマムシ酒などが疲労回復や冷え症などの治療に用いられている。

主な成分

脂肪酸、タウリン、コレステロール、アミノ酸、ビタミン類を含有する。

代表的処方

【伯州散】

ハクシュウサン

慢性の化膿、排膿悪く肉芽形成の遅いもの、急性炎症性のものには用いない。潰瘍、瘻孔（ろうこう：皮膚・粘膜や臓器の組織に、炎症などによって生じた管状の穴）、痔瘻（じろう）、リンパ腺炎、悪性化膿症、カリエス、中耳炎、はれものに用いる。☒

（処方内容） 津蟹（モクスガニ）／反鼻（マムシ）／鹿角 各等量を黒焼きにし末とする

【反鼻 交感丹料】

ハンピコウカンタンリョウ

失心、健忘、心気楽しまないものに用いる。健忘症やうつ病などによる放心状態には茯苓・香附子などと配合する。☒

（処方内容） 茯苓／香附子／反鼻／乾姜

文献報告

【抗胃潰瘍作用】

「生薬・マムシの薬理学的研究（第1報） 50%エタノールエキスの実験的胃潰瘍に対する作用」

Yakugaku Zasshi, 1989, 109, 592-9

【免疫賦活作用】

「生薬・マムシの薬理学的研究（第2報） マウス網内系の食食能に及ぼす50%エタノールエキスの影響」

Yakugaku Zasshi, 1990, 110, 341-8

【抗ストレス・抗疲労作用】

「反鼻の薬理学的研究（第1報） 反鼻の寒冷ストレスおよび振盪ストレス負荷マウスに対する作用」

Shouyakugaku Zasshi, 1985, 39, 270-6

※参考文献：「日本大百科全書」「漢方のくすりの事典」「和漢薬の事典」「デジタル大事典」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

（お問い合わせ） 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562

URL：www.fukudaryu.co.jp

Power of Kanpou